
平成30年度

入学者選抜に
関する要項

2018

金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

目 次

| | |
|--------------------------------|-------|
| 大学概要 | 1 ~ 4 |
| 1. 平成30年度入学定員 | 5 |
| 2. 平成30年度入学者選抜方法等 | 6 |
| 3. 平成30年度入学者選抜の実施教科・科目等 | 7 |
| 4. 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点 | 8 |
| 5. 身体に障がいのある入学志願者との事前相談 | 9 |
| 6. 平成30年度学生募集要項の発表等 | 9 |
| 7. 入学試験個人成績の開示 | 10 |

大 学 概 要

1. 大学憲章と活動指針

大学憲章 Mission Statement

金沢美術工芸大学は、1946年、戦後の混乱と虚脱のなか、学問を好み、伝統を愛し、美の創造を通じて人類の平和に貢献することを希求する金沢市民の熱意により、工芸美術の継承発展と、地域の文化と産業の振興を目指して創立された。

以来、本学は豊かな自然環境と歴史的遺産のなかで、美術・工芸・デザインの分野における個性豊かな教育と学術研究に取り組み、文化都市金沢の発展の一翼を担ってきた。

素材を知り、技を磨き、現代に生きる表現に高めるべく「ものづくりの精神」を尊び、幅広い人間性に裏付けられた理論と技術の彫琢をとおして、芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材を育成し、世界における創造の機会の拡大と多様化に資するために、本学は知と創造の拠点となることを目指す。

活動指針 Mission Policies

<創作の意欲と能力を育てる教育の推進> Creative Potential

地域の文化資源を活用し、「手で考え、心でつくる」をモットーに創造力を高め、人間味あふれる個性と倫理を涵養し、未来社会を拓くクリエイターの育成を目指す。

<質の高い研究とオリジナリティの追求> Professional Individuality

深く芸術の神髄を探究し、諸分野における卓越した知識と技術の継承によって、固有の芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化の発信母体となる。

<地域と世界に貢献する芸術活動の展開> Public Contribution

市民から愛され、尊敬される芸術文化教育の中核を担い、地域社会の活性化と人々の幸福を願い、地球社会の平和と共存に貢献する。

<自立した大学の運営と公共性を重んじる組織の発展> Institution Independence

社会の変化に迅速かつ的確に対応できる教育体制と事務組織を構築し、自己決定、自己責任に基づく自主自立の大学運営を目指す。

2. 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

金沢美術工芸大学は、工芸美術の継承発展と地域の文化と産業の振興に寄与すべく1946年に創立されました。以来、個性豊かな教育・研究活動に取り組み、文化都市金沢の発展の一翼を担いつつ、美術・工芸・デザイン界で活躍する数多くの人材を輩出してきました。

金沢美術工芸大学は、「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」（大学憲章）を育成することを社会から負託された使命であると考え、次の三つの教育目標を掲げています。

1. 地域の文化資源を活用し、「手で考え、心でつくる」をモットーに創造力を高め、人間味あふれる個性と倫理を涵養し、未来社会を拓くクリエイターの育成を目指す。
2. 深く芸術の神髄を探究し、美術・工芸・デザイン分野における卓越した知識と技術を継承することによって、固有の芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担う人材の育成を目指す。
3. 市民から愛され、尊敬される芸術文化教育の中核として、地域社会の活性化と人々の幸福を願い、地球社会の平和と共存に貢献する人材の育成を目指す。

このような教育目標に共鳴し、美術・工芸・デザイン分野における知識と技術の担い手となる意欲と資質を備え、積極的に勉学に取り組む主体性のある人を金沢美術工芸大学は求めています。

入学を希望する諸君に金沢美術工芸大学が望むのは、デッサン等の実技能力を養っておくことに加え、高等学校までの各教科・科目をできる限りしっかりと習得しておくことです。広い視野と基礎的な学力があってはじめて、自らの問題意識を掘り下げて、より高度な制作・研究に進むことが可能になります。一般選抜試験では、すべての専攻が大学入試センター試験において「国語」及び「外国語」を必須の試験科目として課しています。入学後の授業では、制作課題のプレゼンテーションやレポートなど、言語による表現が要求されます。また、筋道立てて読みとる読解力はあらゆる学問・情報に接近するために不可欠な基礎的能力だと考えます。

金沢美術工芸大学では、各専攻がその理念と教育方針に応じて、入学者選抜試験における教科・科目及び実技、小論文、面接等の要件を設定し、明確な目的意識をもった人の入学を求めて「求める学生像」を公表しています。また、美術科芸術学専攻とデザイン科の全専攻と工芸科では推薦入試を実施しています。

学修に必要な技能と基礎的な学力を備え、「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」を目指して勉学に励むことができる人を金沢美術工芸大学は広く受け入れます。

美術科

美術科では、高度で創造的な技術の修得とその応用をはかり、古典から現代までをつらぬく美術理論を学びます。各専攻はそれぞれの専門にふさわしい目標を定め、特色あるカリキュラムを編成しています。将来、作家や研究者をはじめ、これからの美術分野で活躍し、貢献する人材の育成を目指しています。

このことから、美術科では次のような人を求めます。

日本画専攻

- ・ 絵画に関する基礎的な描写・表現力や観察力並びに知識を有する人
- ・ 芸術について強い興味と意欲が有り、将来広く美術の応用面に携わる事を望む人
- ・ 将来、作家として広く国内外で活躍したいと希望する人

油画専攻

- ・ 絵を描く事が好きで、自己表現に向けて努力できる人
- ・ 基礎的技術を高め、知識を深めたい人
- ・ 国際的な美術の動きに興味を持っている人

彫刻専攻

- ・ 造形の「美」や「表現」に対して強い好奇心と探究心を持つ人
- ・ 「自然」や「素材」と素直に向き合い、粘り強く制作に取り組める人
- ・ 開かれた世界で活躍する強い意志と夢を持った人

芸術学専攻

- ・ 美術の歴史や現状を、理論と実技の両面から探求するための基礎がある人
- ・ 芸術の歴史、理論、技法のさまざまな領域において、専門的研究を展開できる人
- ・ 研究成果を社会と地域に還元し、また国際的に貢献する意欲のある人

デザイン科

デザイン科は、それぞれの専門分野における教育をより高度なものとしつつ、3つの専攻にわたって連携した教育を行っています。グローバル化、多様化の進む現代の社会において、デザインの世界を広く眺めながら、優れた専門性を発揮できる人材の育成を目指しています。

このことから、デザイン科では次のような人を求めます。

視覚デザイン専攻

- ・ ものを創ることが何よりも好きで、アイデアを考えることが楽しくて仕方がない人
- ・ 柔軟性と独創性に優れ、自己の能力と技術を磨くことに喜びを感じる人
- ・ コミュニケーション能力を持ち、デザインを通して社会との関わりを大切にすること

製品デザイン専攻

- ・自らの手で、ものづくりすることが好きで基礎的な表現力を備えている人
- ・人や生活道具への関心が高い人
- ・デザイナーとして社会で活躍することへの意欲を持っている人

環境デザイン専攻

- ・場所の特性を理解する力、発想力、アイデアの展開力を磨こうとする人
- ・空間デザインに興味を持ち、そこで様々な演出を試そうとする人
- ・金沢のまちを舞台として、デザイン能力を高め、世界に羽ばたこうとする人

工 芸 科

工芸科は、1年次で様々な素材に触れる体験から基礎的な造形力を養います。2年次以降は陶磁、漆・木工、金工、染織のいずれかの領域を選択し、各々の素材に関する多様な技術の習得、現代の社会的ニーズに適応したより高度なものづくりや造形表現に取り組みます。4年間を通して世界に発信する工芸作家、研究者、デザイナーの養成を目指しています。

このことから、工芸科では次のような人を求めます。

- ・基礎的な表現力を有し、工芸に対し幅広く関心を持つ人
- ・素材、技法、表現に対して、柔軟な対応力を有する人
- ・将来、工芸を通して広く国内外で活躍したいと希望する人

3. 卒業後の資格

- (1) 本学を卒業する者には、学士（芸術）の学位が授与されます。
- (2) 教職に関する専門教育科目を履修し、美術科またはデザイン科を卒業した者には、中学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（美術）が与えられます。また、教職に関する専門教育科目を履修し、工芸科を卒業した者には、中学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（工芸）が与えられます。
- (3) 博物館に関する専門教育科目を履修し、本学を卒業した者には、学芸員となる資格が与えられます。
- (4) 環境デザイン専攻を卒業した者には、二級建築士受験資格（実務経験不要）と、商業施設士補（講習会受講が必要）の資格が与えられます。

1. 平成30年度入学定員

| 学部・学科名 | | 専攻名 | 入学定員 | 募集人員 | |
|--------|-------|----------|------|------|------|
| | | | | 一般選抜 | 推薦入試 |
| 美術工芸学部 | 美術科 | 日本画専攻 | 15 | 15 | — |
| | | 油画専攻 | 25 | 25 | — |
| | | 彫刻専攻 | 15 | 15 | — |
| | | 芸術学専攻 | 15 | 10 | 5 |
| | | 小計 | 70 | 65 | 5 |
| デザイン科 | デザイン科 | 視覚デザイン専攻 | 20 | 18 | 2 |
| | | 製品デザイン専攻 | 20 | 18 | 2 |
| | | 環境デザイン専攻 | 20 | 18 | 2 |
| | | 小計 | 60 | 54 | 6 |
| | 工芸科 | | 20 | 18 | 2 |
| | 合計 | | 150 | 137 | 13 |

出願資格（一般選抜）

本学に出願できる者は、次のいずれかに該当し、かつ、平成30年度大学入試センター試験を受験した者とします。（受験を要する教科・科目は7ページ参照）

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者
 - ① 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者
 - ③ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - ④ 文部科学大臣の指定した者
 - ⑤ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）及び平成30年3月31日までに合格見込みの者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者
 - ⑥ 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
 - ⑦ 本学において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの

※ 出願資格⑦により出願しようとする者は、平成29年9月1日（金・必着）までに本学事務局に所定の書類を提出してください。

2. 平成30年度入学者選抜方法等

(一般選抜、専門高校・総合学科卒業生選抜、アドミッション・オフィス入試)

| 選抜方法等 | 個別学力検査等 | | | | | | | | 専門高校・総合学科卒業生選抜 | | | | | アドミッション・オフィス入試 | 個別学力検査等の日程 | 備考 欠員の補充の方法等 |
|--------|------------|----------|-------|---------|---------------------|----------------|-----|------------|----------------|-------|---------|---------------------|-------------------------|----------------|---------------------------|-----------------|
| | 実技検査等 | | | | 2段階選抜 | | | | 実技検査等 | | | | | | | |
| | 個別学力検査を課する | 実技検査を課する | 面接を行う | 小論文を課する | 外国語におけるリスニングテストを課する | 第1段階の選抜による合格者数 | | 個別学力検査を課する | 実技検査を課する | 面接を行う | 小論文を課する | 外国語におけるリスニングテストを課する | 募集人員 | | | |
| | | | | | | 定員に対する倍率 | その他 | | | | | | | | | |
| 学部名 | 学科名 | 専攻名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 美術工芸学部 | 美術科 | 日本画 | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 3月9日～11日 3月3日立期 公中 | 追加合格 |
| | | 油画 | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 3月10日～14日 3月3日立期 公中 | 追加合格 |
| | | 彫刻 | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 3月10日～12日 3月3日立期 公中 | 追加合格 |
| | | 芸術学 | × | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 3月8日 3月立期 公中 | 追加合格 |
| | デザイン科 | 視覚デザイン | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 3月12日～14日 3月立期 公中 | 追加合格 |
| | | 製品デザイン | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 3月12日～14日 3月立期 公中 | 追加合格 |
| | | 環境デザイン | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 3月12日～14日 3月立期 公中 | 追加合格 |
| 工芸科 | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 3月12日～14日 3月立期 公中 | 追加合格 | | |

平成30年度入学者選抜方法等 (特別選抜)

| 選抜方法等 | 推薦入学 | | | | | | | | | 帰国子女・社会人等のための特別選抜 | | | 備考 | |
|--------|--|-------------------------|----------|-------|---------|---------------------|-----|------|----------|-------------------|---|---|----|--------|
| | 入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する | | | | | | | | | 推薦入学募集人員 | | | | |
| | 個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課する | 個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する | 実技検査等 | | | | | | | | | | | |
| | | | 実技検査を課する | 面接を行う | 小論文を課する | 外国語におけるリスニングテストを課する | その他 | 帰国子女 | 中国引揚者等子女 | 社会人 | | | | |
| 学部名 | 学科名 | 専攻名 | | | | | | | | | | | | |
| 美術工芸学部 | 美術科 | 日本画 | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | |
| | | 油画 | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | |
| | | 彫刻 | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | |
| | | 芸術学 | × | ○ | × | ○ | ○ | × | × | 5 | × | × | × | 石川県枠2人 |
| | デザイン科 | 視覚デザイン | × | ○ | ○ | ○ | × | × | × | 2 | × | × | × | |
| | | 製品デザイン | × | ○ | ○ | ○ | × | × | × | 2 | × | × | × | |
| | | 環境デザイン | × | ○ | ○ | ○ | × | × | × | 2 | × | × | × | |
| 工芸科 | × | ○ | ○ | ○ | × | × | × | 2 | × | × | × | | | |

3. 平成 30 年度入学者選抜の実施教科・科目等

本学では全専攻において、**3教科3科目**（理科の「基礎を付した科目」を選択する場合は4科目）の受験が必要です。

詳細については、以下のとおりです。

| 学 科 | 専 攻 | 区 分 | 教 科 | 科 目 |
|-------|---|------------|-------|--|
| 美 術 科 | 日 本 画 油 画 彫 刻 | 必 修 2教科 | 国 語 | 「国語」 |
| | | | 外 国 語 | 「英語（リスニングテストを含む。）」「ドイツ語」「フランス語」 「中国語」「韓国語」 から 1 科目選択 |
| デザイン科 | 視 覚 デザイン 製 品 デザイン 環 境 デザイン | 選 択 1教科 | 地理歴史 | 「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」 「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」 から 1 科目選択 |
| | | | 公 民 | |
| 工 芸 科 | | 選 択 1教科 | 数 学 | 「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」「情報関係基礎」 から 1 科目選択 |
| | | | 理 科 | 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から 2 科目選択 または「物理」「化学」「生物」「地学」 から 1 科目選択 |
| 美 術 科 | 芸 術 学 | 必 修 2教科 | 国 語 | 「国語」 |
| | | | 外 国 語 | 「英語（リスニングテストを含む。）」「ドイツ語」「フランス語」 「中国語」「韓国語」 から 1 科目選択 |
| | | 選 択 1教科 | 地理歴史 | 「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」 から 1 科目選択 |

| 学部名 | 学科名 | 専攻名 | 入学志願者に 解答させる 教科・科目 目名等 | 個別学力検査等の教科・科目等 | 大学入試 センター試験 の利用方法 | その他 |
|--------|-------|------------------------------|--|--|--|-----|
| | | | | | | |
| 美術工芸学部 | 美術科 | 日本画 | 実技試験Ⅰ（鉛筆写生） 実技試験Ⅱ（着彩写生）、面接 | 平成30年度 センター試験の 成績を用いる 4. 配点の項目 を参照すること | 選択科目は、大 学入試センター 試験において最 高得点を得た1 科目の成績を採 用する。 ただし、地理 歴史、公民及び 理科（理科の基 礎を付した科目 を選択する場合 は2科目で1科 目扱いとする。） において2科目 受験した場合は、 第1解答科目の 成績を採用し、 判定の対象と する。 | |
| | | 油画 | 実技試験Ⅰ（木炭デッサン又は鉛筆デッサン） 実技試験Ⅱ（油彩又はアクリル）、面接 | | | |
| | | 彫刻 | 実技試験Ⅰ（木炭デッサン又は鉛筆デッサン） 実技試験Ⅱ（塑造・スケッチ）、面接 | | | |
| | デザイン科 | 芸術学 | 実技試験（鉛筆デッサン）又は小論文 （入学願書出願時に選択した1科目） | | | |
| | | 視覚 デザイン | 実技試験Ⅰ（鉛筆デッサン） 実技試験Ⅱ（色彩構成）・（作品説明による面接） | | | |
| | | | 実技試験Ⅰ（鉛筆デッサン） 実技試験Ⅱ（製品のデザイン〔与えられた色鉛筆による スケッチ〕）・（作品説明による面接） | | | |
| | | 環境 デザイン | 実技試験Ⅰ（鉛筆デッサン） 実技試験Ⅱ（構成デザイン）・（作品説明による面接） | | | |
| 工芸科 | 工芸科 | 実技試験Ⅰ（鉛筆デッサン） 実技試験Ⅱ（色彩表現） | | | | |

(注意) 実技試験Ⅰの合格者のみ実技試験Ⅱを受験することができます。
(美術科芸術学専攻を除く。)

4. 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点

| 学部・学科・専攻名 | 試験区分 | | 大学入試センター試験 | | | | | | | | 合計 | |
|-----------|-------|--|-----------------|------|------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 実技Ⅰ | 実技Ⅱ | 国語 | 外国語 | 地理歴史 | 公民 | 数学 | 理科 | 計 | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 美術工芸学部 | 美術科 | 日本画 油画 彫刻 | 700点 | 700点 | 200点 | ※1 200点 | (200点) | (200点) | (200点) | (200点) | 600点 | 2,000点 |
| | | 芸術学 | 実技又は小論文 400点 | | 400点 | ※2 400点 | (400点) | - | - | - | 1,200点 | 1,600点 |
| 美術工芸学部 | デザイン科 | 視覚 デザイン 製品 デザイン 環境 デザイン | 700点 | 700点 | 200点 | ※1 200点 | (200点) | (200点) | (200点) | (200点) | 600点 | 2,000点 |
| | | 工芸科 | 500点 | 500点 | 200点 | ※1 200点 | (200点) | (200点) | (200点) | (200点) | 600点 | 1,600点 |

() は選択科目を示し、選択科目の中から最高得点を得た1科目の成績を使用します。

ただし、地理歴史、公民及び理科（理科の基礎を付した科目を選択する場合は2科目で1科目扱いとします。）において2科目受験した場合は、第1解答科目の成績を採用し、判定の対象とします。

※1 外国語のうち、英語は筆記200点、リスニング50点の計250点を200点に換算します。

※2 外国語のうち、英語は筆記200点、リスニング50点の計250点を400点に換算します。

5. 身体に障がいのある入学志願者との事前相談

本学に入学を志願する者で、身体に障がい（学校教育法施行令第22条の3に定める程度）があるものは、受験及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願前にあらかじめ本学に申し出てください。

また、申出に基づき相談が必要となった場合の手続などは、次のとおりとします。

- (1) 相談の時期 募集要項の発表後から平成30年1月5日（金）まで
- (2) 相談の方法

事前相談申請書（本学所定の様式に健康診断書等必要書類添付）を提出することとし、必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面接等を行います。

6. 平成30年度学生募集要項の発表等


- (1) 発表時期等

- ・推薦入学：募集人員、出願期間、出願方法、実技試験及び学力検査等の内容等必要な事項を記載した学生募集要項は、平成29年7月中旬に発表する予定です。
- ・一般選抜：募集人員、出願期間、出願方法、実技試験又は小論文の内容等必要な事項を記載した学生募集要項は、平成29年10月中旬に発表する予定です。

- (2) 請求方法

テレメールの配布システムを利用する場合

①大学のホームページから請求する場合

大学のホームページからテレメールを利用して大学案内及び募集要項等の資料が請求できます。

詳しくは金沢美術工芸大学ホームページ (<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/>) をご覧ください。

②インターネット（パソコン・スマホ・ケータイ）又は自動音声応答電話で請求する場合

I. 下記のいずれかの方法でテレメールにアクセスしてください。

| | | | |
|-------------------------------|---|-----------------------------------|---|
| インターネットの場合 (パソコン・スマホ・ケータイ) | http://telemail.jp | スマホ・ケータイでアクセスした場合は資料請求番号の入力は不要です。 |  |
| 自動音声応答電話の場合 | IP 電話 050-8601-0101 (24時間受付) ※ IP 電話への通話料金は、一般電話回線からは日本全国どこからでも3分毎に約12円です。 | | |

II. 請求を希望する資料請求番号（6桁）をプッシュ又は入力してください。

| 資料名 | 資料請求番号 | 料金(送料含む) | 発送開始日 |
|-----------------|--------|----------|------------|
| 一般選抜学生募集要項 | 583052 | 180円 | 10月20日発送予定 |
| 大学案内 | 563072 | 250円 | 随時発送中 |
| 推薦入学学生募集要項 | 583062 | 180円 | 7月20日発送予定 |
| 一般選抜学生募集要項+大学案内 | 543052 | 300円 | 10月20日発送予定 |

III. あとはガイダンスに従って登録してください。

①②に関する注意事項

※テレメールのパスワードをお持ちの方はお届け先の登録は不要です。

※資料は発送日の翌日・翌々日に届きます。ただし、受付時間や地域、配達事情によっては3日以上かかる場合もあります。1週間以上経っても届かない場合はテレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。なお、発送開始日以前の請求分は発送開始日に一齐に発送されます。

※料金はお届けする資料に同封の料金支払用紙をご確認の上、お支払いください。なお、支払い手数料が別途必要になります（ケータイ払いは50円。クレジットカード払いは50円。コンビニ支払いは86円。ゆうちょ銀行・郵便局のATM扱いは80円、窓口扱いは130円。複数資料の料金をまとめて支払うこともできます。）。

①②の請求方法についてのお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター TEL 050 - 8601 - 0102 (9:30 ~ 18:00)

本学に請求する場合

③郵送による場合

郵送で請求する場合は、発送する封筒の表に「学部募集要項請求」（一般選抜又は推薦入学と区別して）朱書し、返信用封筒〔角形2号封筒（240mm×322mm）に郵便切手250円を貼付し、受信者の郵便番号・住所・氏名を明記したもの〕を同封してください（速達希望者は、普通郵便切手のほかに280円分切手を追加貼付し、「速達」と朱書してください。）。

④窓口で直接受取る場合

本学の窓口で直接交付します。

◎「学生募集要項」及び「事前相談申請書」の問合せ先は下記のとおりです。

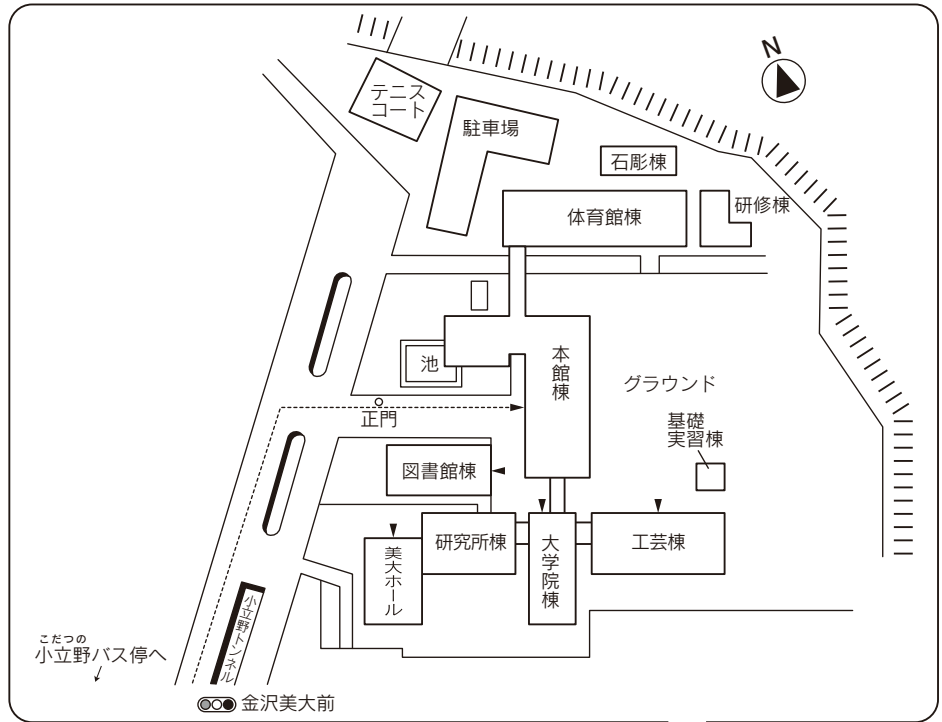
金沢美術工芸大学事務局 電話 (076) 262 - 3531
〒920-8656 金沢市小立野5 - 11 - 1 FAX (076) 262 - 6594

7. 入学試験個人成績の開示

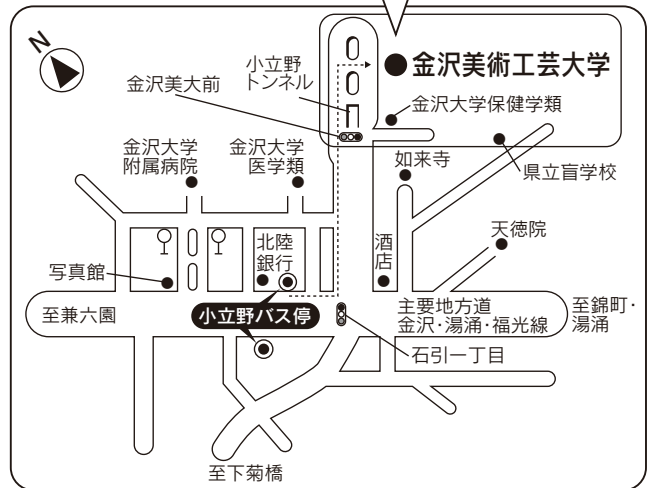
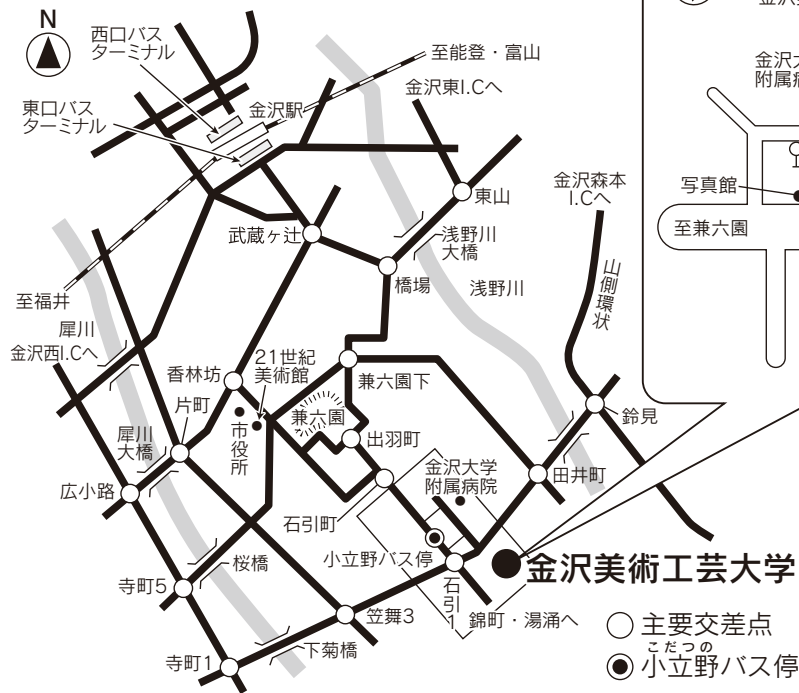
本学は、平成30年度一般選抜個別学力検査等の試験成績の開示を、受験者本人から照会があった場合のみ行います。希望者は、郵送する封筒の表に「成績開示請求」と朱書し、返信用封筒〔長3型封筒（120mm×235mm）に郵便切手82円を貼付し、受験者の郵便番号・住所・氏名・受験番号・連絡先電話番号を明記したもの〕及び本学受験票の写しを同封のうえ、平成30年5月1日（火）から5月31日（木）まで（受付期間内の局消印有効）の間に郵送のみにより事務局に照会してください。

なお、成績開示の発送は平成30年6月中旬になります。

●キャンパスレイアウト



●交通アクセス



大学への交通

●電 車／金沢駅下車

●バ ス／金沢駅東口（兼六園口）バスターミナル7番のりば

- ①東部車庫行、①金沢学院大学行、
- ②湯涌温泉行、②北大薬学部行、②北大太陽が丘行、
- ⑥駒帰行（乗車約25分）

金沢駅東口（兼六園口）バスターミナル6番のりば

- ⑬湯谷原行、⑭田上住宅行（乗車約25分）

金沢駅西口（金沢港口）バスターミナル5番のりば

- ⑩東部車庫行、⑩金沢学院大学行、⑬湯谷原行（乗車約25分）

いずれのバスも「小立野（こだつの）」で下車してください。（徒歩約8分）

タクシー／金沢駅から約20分

●自動車／北陸自動車道

金沢森本ICから約15分

金沢西ICから約25分

●航空機／小松空港から

バス／リムジンバス（乗車約40分）

金沢駅下車

（乗り換え、東・西口から電車の場合に同じ）



金沢美術工芸大学

KANAZAWA COLLEGE OF ART

公立大学法人 金沢美術工芸大学
〒920-8656 石川県金沢市小立野5丁目11番1号
TEL 076-262-3531 FAX 076-262-6594

5-11-1 Kodatsuno Kanazawa Ishikawa
920-8656 Japan
TEL +81-76-262-3531 FAX +81-76-262-6594
<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp>

